

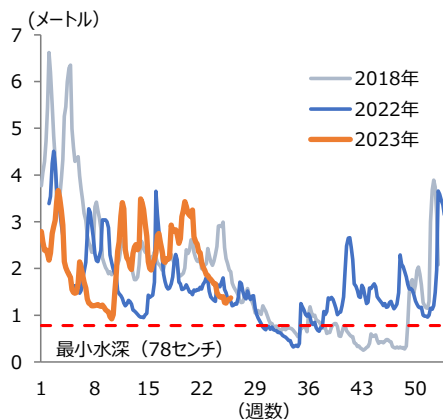
欧州

ライン川水位低下によるドイツ経済への影響

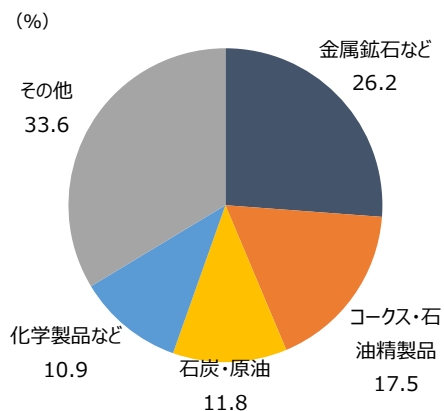
ライン川の深刻な水位低下が生じればエネルギー不安再燃

政策・経済センター
綿谷謙吾
03-6858-2717

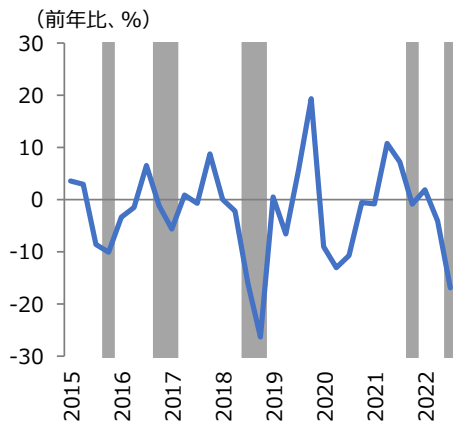
1 ライン川（カウブ）の水位



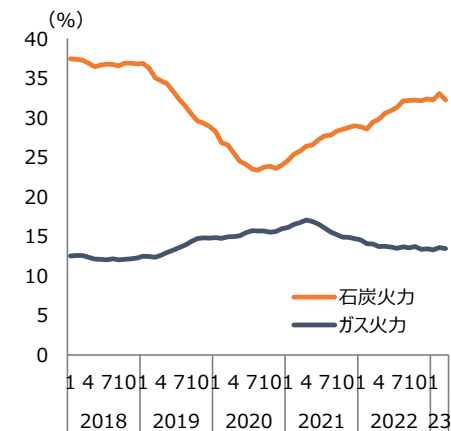
3 ドイツ内陸水運の輸送内訳



2 内陸水運での輸送量（ドイツ）



4 発電に占める石炭火力割合（ドイツ）



評価ポイント

ライン川の水位低下の影響

- ドイツの内陸水運の中心であるライン川の水位が今年も低下し始めている（図表1）。ライン川の重要拠点であるカウブの水位は、現時点では貨物船が運航できる最小水深（78センチ）を上回っているが、船舶の運航に障害が生じた18年・22年の6月時点の水位と同程度まで低下している。
- 記録的な熱波・干ばつの影響から長期間にわたり水位が低下した18年・22年は、内陸水運の輸送量が大幅に落ち込んだ（図表2）。ドイツの内陸水運による輸送は、輸送全体の1割程度のシェアであり、輸送物は金属鉱石や石油精製品、石炭が中心となっている（図表3）。輸送に占めるシェアは小さいが、発電や製造業で投入される原材料であるため、輸送に障害が生じれば経済活動への影響は無視できない。

今後の注目点

- ライン川は例年、夏から秋にかけて水位が低下するため、23年も船舶の運航に障害が発生する可能性は高い。
- ライン川の水位低下は①物流コストの上昇、②物流遅延による供給制約・生産低下、③エネルギー供給不安、の経路で欧州、特にドイツ経済に影響を与えるとみる。特にドイツでは、脱ロシアの実現に向け一時的に石炭火力の割合が上昇しており、石炭輸送に影響が生じればエネルギー不安につながる可能性がある（図表4）。ドイツ経済は2四半期連続のマイナス成長に陥ったが、今後リスクが顕在化すれば年後半の経済抑制要因となるだろう。
- 欧州全体では、暖冬要因などから22-23年冬のエネルギー不安は乗り越えたが、暖冬と降雪量の少なさから干ばつや水不足が続いている。欧州干ばつ観測所（EDO）によると、6月初旬時点で、南欧のスペイン・ポルトガルを中心に深刻な干ばつが発生、フランスやドイツなどでも干ばつへの警戒レベルが上がっている。記録的な熱波と干ばつが今年も発生すれば、ドイツに限らずエネルギー不安が再燃、経済活動を下押しするだろう。